

「伝統」という世界から解き放ち
新しい素材として、和紙を現代に、未来に

富士製紙企業組合

富士製紙企業組合は、1300年の歴史を持つ阿波和紙の伝統文化を守り継承するために設立し、和紙の製造加工及び販売を行ってきました。当組合で製造加工する和紙は、伝統的手法によって製造されており、技術・技能の伝承が求められています。しかし当組合は和紙の伝統文化を守り継承するだけでなく、「新しい素材の作り手」として、むしろ和紙を「伝統」という世界から解き放し、さまざまな技法の開発・素材の研究活動を行う阿波和紙のブランド「アワガミファクトリー」を立ち上げています。

また、地域小学生への伝統産業の見学・体験や地域の高校での体験学習、県外高校などでの講演活動など、積極的に地域貢献活動を行っています。

今後も伝統文化を守り継承しながら、阿波和紙の可能性を求めていきます。

《組合概要》

組合専従者数 6名

組合員数 10名

組合員の資格

個人組合員

- ① 本組合の行う事業について将来とも協調する熱意を有する者
- ② 公正な経済活動を促進し常にその発展に寄与する者

特定組合員

- ① 本組合の事業活動に必要な物資の供給（役務の提供）を継続して行う法人等
- ② 本組合の事業に必要な施設（設備又は技術）の提供を行う法人等
- ③ 本組合からその事業に係る物資の供給（役務の提供）を継続して受ける法人等
- ④ 本組合からその事業に係る技術の提供を受ける法人等
- ⑤ 本組合に対し、技術、知識又は経験を有する使用人を派遣する法人等

設立年月日 昭和27年1月23日

出資金 3900万円

事業内容

- ① 和紙の製造、加工及び販売
- ② 紙類の製造、印刷、製本、及び販売
- ③ 全各号の事業に附帯する事業

1. 組合等設立の背景と目的について

昭和27年1月に和紙製造加工及び販売を目的に設立

2. 組合の沿革

昭和27年 1月 富士製紙企業組合 設立 代表理事 藤森實 就任
昭和60年 3月 つくば科学万博迎賓館内装用藍染和紙製造
昭和63年 3月 代表理事 藤森實 退任
昭和63年 4月 代表理事 藤森洋一 就任
平成元年 3月 横浜博覧会迎賓館内装用藍染め和紙製造
平成5年 8月 北米における阿波和紙の販売契約締結
平成8年 10月 欧州における阿波和紙の販売契約締結
平成13年10月 A-WALL (壁紙) 発表
平成15年10月 AIJP (インクジェット用和紙) 発表
平成20年10月 A-WALL (壁紙) がグッドデザイン日本商工会議所会頭賞受賞

3. 共同事業等の取り組み内容

富士製紙企業組合は、阿波和紙の伝統文化を守り継承していくとともに、新しい素材の作り手としての可能性を追求する「アワガミファクトリー」ブランドの母体となる組織です。機械抄紙・染紙・和紙加工品の製造や和紙の製本等を行っています。

(1) 阿波和紙の歴史とブランドの確立

和紙は古くから障子や提灯などに使われ、光と空気を通すその性質から、人々の暮らしには必要不可欠なものでした。江戸時代には、阿波藩の藩札などの御用紙のほか、藍染和紙により全国にその名が知られていました。

また明治時代のパリ万博へ出品されるなど時代とともに発展し、明治の最盛期には吉野川流域に500軒、その内200軒は現在の吉野川市山川町に在り、この地域の一大産業になりました。しかし大正時代以降、大量生産の機械製紙の普及などにより徐々に阿波和紙は衰退し、現在は紙漉き事業者が当組合のみとなりました。

唯一残った紙漉き事業者として昭和27年に富士製紙企業組合を設立しました。そして20年前に阿波和紙ブランド「アワガミファクトリー」を確立し展開しています。

「アワガミファクトリー」はブランドの母体となる富士製紙企業組合と阿波手漉和紙商工業協同組合、一般社団法人阿波和紙伝統産業会館の3つの組織で構成されています。

Awagami
Factory®



(2) 和紙の独自技法の開発、素材の研究

機械抄紙・染紙・和紙加工品の製造を行いながら、現代の印刷技術に対応したインクジェット用和紙やインテリア用の和紙の開発にも力を入れています。衰退しつつある和紙の需要を掘り起こすべく、海外に目を向けたことから始まりました。

伝統的な技術を活かしつつ、オフセット印刷やインクジェット印刷が可能な和紙など、新しい技術を積極的に取り入れ電材のライフスタイルに合った和紙を提案しています。

近年特に力を入れているのが「アワガミインクジェットペーパー」です。独自の技術で開発したインクジェット紙は発色や耐久性に優れ、アーティストだけでなく、グラフィックデザイナーやブックデザイナーたちからも絶大な支持を得ています。

また、植物の素材感を生かし質感豊かな和紙の提供を目指し、廃棄野菜など植物の一部を漉き込み、アップサイクルする「ベジタブル紙」をシリーズ化しています。「玉葱」「菜の花」「藍」「メロン」「芋のつる」「いぐさ」「コーン」「大根」「かや」「竹皮」などをラインナップしています。



(3) 「見える化」による生産性向上への取組み

当組合は、若年者への製造ノウハウの伝承の難しさや高齢化による労働力不足、多品種小ロット化による稼働率の低下などの課題があります。これら課題を解決するためにデジタル技術を活用した製造現場を「見える化」して作業者をサポートするシステムを構築しました。システム構築に当たり、中小企業団体中央会の「令和2年度組合等情報ネットワークシステム等開発事業」を活用しました。本システムにより、工場内の製造装置に設置された計測器や計測センサーから情報がリアルタイムに収集され、過去のデータと比較分析することで、異常アラートや作業へのアドバイスがモニターに表示されます。これにより作業の軽減化や品質の維持が図られ、また生産計画の精度向上にも繋がっています。本システムは「アワガミ見える化システム 3.0」と位置付けており、都度ブラッシュアップしていきます。



4. 社会貢献・地域貢献について

(1) 地域小学生への伝統産業の見学、体験

地域の小学生を対象にした体験学習「あわがみ探検隊」を開催しています。クイズに答えたり、展示をみたり、原料に触れて伝統産業である和紙作りの工程を学んでもらおうという企画です。はがきや半紙サイズの和紙が漉ける体験もできます。



(2) 鳴門渦潮高校にて体験学習

阿波和紙の伝統文化と平和を願う「野老折鶴」のレクチャー講演を鳴門渦潮高校で行

いました。生徒の皆さんが一生懸命話を聞いてくれ折り鶴を折ってくれました。

若い人たちに和紙についていろいろな知識を持ってもらいたいとの気持ちが大きく、高校生を対象にした講演活動は、今後も続けていく計画です。2024年春も長野県の高校に出向き、阿波和紙の伝統文化と平和を願う「野老折鶴」のレクチャーと折り鶴の講演を実施する予定です。



(3) 体験会の開催

「はがき判体験会」「半紙判体験会」などの手漉き和紙の体験会を開催しています。また年に1回の頻度で「阿波手漉き和紙研修会」を開催しています。昔からの手漉き和紙はどうやって作られたのか、伝統的な手法による紙漉きの全工程を指導しています。各回15名程度の定員で開催していますが、7~8割は海外からの参加者となっており、国際的な人気を呼んでいます。



5. 組合設立・組織化の効果・メリットについて

阿波和紙の製造者として唯一残った藤森家が阿波和紙の伝統を守り続けるために、個人が資本と労働力を投入し組合自体が一つの企業体となって事業活動を行うという企業組合として法人格を持つ組織として設立しました。設立費用が少ないことや国等の各種補助事業を活用できることから早期に事業の立ち上げることができたことが大きなメリットでした。

6. 今後の方向性について

未来を見据えた収益の柱となる新しい商品を育てていかなければなりません。今着目しているのは阿波和紙で作った壁紙です。本製品の特徴は、様々な柄や模様のデザインを和紙に印刷機でプリントすることができ、一度にまとまった量の生産が可能です。和紙の壁紙は光を柔らかく受け止め、室内に独特の温かみをもたらすことができます。公共施設などで使用されるために必要な防火認定も取得済みです。

新たな商品の販売拡大を図るための周知活動も並行して行っています。ホームページ



ジヤブログ、インスタグラムなどのSNSを積極的に活用していきます。阿波和紙壁紙が展示されている状況を動画で配信し、魅力を伝えていきます。

🌸 7. 中央会を利用して良かった点

当組合にとって必要でやりたいことを実現するための適切な助成事業を中央会を通じて知ることができ、事業計画を進める中で、事業計画の組合外の委員として適切なアドバイスをサポートが受けられること。

大量に使う時代は終わり、和紙そのものの需要は減っています。

インターネットでの個人への直販や、世界60か国との取引などに新たな販路を広げていきます。今後も、アーティストとのつながりを生かしたギャラリー機能など地域に資する展開を図り、常に新しさを求め、和紙で時代の息吹を表現していきます。

富士製紙企業組合

代表者（役職・氏名） 代表理事 中島 茂之

住所 徳島県吉野川市山川町川東136番地

URL <https://awa-kenmokuren.com/>

電話番号 0883-42-2035



Awagami
Factory®

